

産婦人科(生殖医療を含む)専攻医カリキュラム

1. 目標

一般産婦人科医療(生殖医療を含む)を行える、また、専門医を取得するために必要な知識、技術(検査・手術・分娩介助等)、心構えを身につける。

2. 研修スケジュール

年度	
1年度	産婦人科・総合生殖医療センター 病棟・外来・手術室
2年度	産婦人科・総合生殖医療センター 病棟・外来・手術室
3年度	産婦人科・総合生殖医療センター 病棟・外来・手術室
終了後の予定	当院での勤務、名古屋大学の関連病院での勤務、名古屋大学産婦人科大学院への進学等。終了時の状況等によるため、終了後の身分を保障するわけではありません。

3. 診療科の特徴

腫瘍、周産期、生殖医療の専門三部門の診療や、産婦人科救急が充実しています。知識、技術と判断力が修得できるよう教育にも力を入れています。

4. 研修体制

1) 教育病院の指定の有無

日本産科婦人科学会専門医卒後研修施設

日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医(暫定)基幹研修施設

母体保護法指定施設

日本産科婦人科学会生殖補助医療実施施設

2) 研修カリキュラム

日本産科婦人科学会「産科婦人科専門医カリキュラム」に準拠。

3) 取得可能な認定医および取得可能な時期

学会入会后、5年を経過した時点で産婦人科専門医受験資格を得ることができる。

その後、母体・胎児専門医や生殖医療専門医受験資格を得ることができる。

4) スタッフ体制

部長 4 名、医長 1 名、常勤医 2 名、専攻医 6 名、研修医 1-2 名

5) 症例検討会、抄読会等のスケジュール

(1) 症例検討会:産婦人科 毎週1回水曜日 18時～19時30分

総合生殖医療センター 第2火曜日または水曜日 15時30分～17時30分

(2) 抄読会: 毎週1回木曜日 8時～8時30分

(3) 合同カンファレンス(周産期): 毎週1回木曜日 18時～19時

(4) その他

6) 主な参加学会

日本産科婦人科学会、日本癌治療学会、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期・新生児医学会、日本生殖医学会、日本受精着床学会

7) 定期的に参加する研究会等

(1) 東海腫瘍研究会 年1回

(2) 東海周産期研究会 年1回

(3) 名古屋大学産婦人科内分泌研究会 年1回

5. 主な経験目標

1) 診察法・検査・手技

(1) 診察法

問診、双合診、妊婦の内診等

(2) 検査法

経腹・経膈超音波検査、子宮卵管造影

(3) 基本的手技

分娩介助、羊水検査、人工授精

(5) 手術

1 年度前期 会陰裂傷縫合術、頸管裂傷縫合術、子宮内容除去術、子宮腔部円錐切除術、付属器切除術、卵巣腫瘍摘出術、子宮外妊娠根治術、腹式子宮全摘術など

1 年度後期期 帝王切開術、避妊手術、採卵・胚移植手術

2 年度前期 子宮頸管縫縮術、子宮脱根治術、子宮筋腫核出術

2 年度後期期 腔式子宮全摘術、拡大子宮全摘術、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術

3 年度 広汎子宮全摘術、卵巣癌根治術、外陰癌根治術

(4) 基本的治療法

ホルモン治療(月経異常、子宮内膜症、子宮筋腫などに対する)

付属器炎等感染症に対する治療

妊娠悪阻に対する治療

切迫流早産に対する治療

抗癌剤治療(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、絨毛性疾患などに対する)

一般不妊治療(排卵誘発剤、黄体サポートなど)など

2) 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 症状

腹痛、不正性器出血、月経困難症、月経不順など

(2) 病態

腹水貯留、排卵障害など

(3) 疾患

付属器炎など

子宮筋腫、子宮腺筋症卵巣腫瘍、子宮内膜症など

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、絨毛性疾患など

妊娠悪阻、切迫流早産、母体合併症妊娠、胎児異常など

不妊症、習慣流産、卵巣過剰刺激症候群など

3) 研究会・学会発表・論文発表

(1) 研究会・学会発表 年1回以上

(2) 和文・英文論文発表 研究意欲に応じて鋭意指導